



明日香・聖徳通信



令和5年10月17日発行 校長 角田 哲典 第6号

ある著名な役者の言葉です。「師匠から芸を手にとって教えてもらうことはできなかったものだ。見て覚える、まねるといふことの連続だった。一つの芸を身につけるにはよい芸を盗まなきゃいかん。」そして、「芸を高めようとする欲が大事である。」とっておられました。このことは、学校生活にも相通じる気がします。児童生徒の様々な活動の中で、上級生が下級生により模範を示し、行動や取り組み方を「みて まねて 盗んで」を受け継ぎながら、伝統や校風が築かれていると思うからです。

先日実施された体育大会・体育祭でもその一コマを垣間見ました。先輩が築いてきた成果を後輩が受け継ぎ、懸命に努力しているエネルギッシュな姿、アフターコロナにおける「新しいかたち」を自分たちの力で築いていこうとする姿がありました。児童生徒の「高い志」と教職員の「熱い思い」と保護者の皆様の「温かいご声援」のおかげで無事終了することができました。

また、保護者のみなさまには観覧に際してのご理解とご協力のおかげでスムーズに体育大会や体育祭を実施することができました。テントの設営や撤収等にご協力いただきましたこと重ねて御礼申し上げます。

(中学校) 10月6日(金) 実施

体育祭テーマ「水滴石穿」

～己の小さな力 積み重ねれば 天を穿つ～



(小学校) 10月7日(土) 実施

体育大会テーマ「あきらめない 全力・全開！」



「お話の世界」の扉を開きませんか

ようやく暑さも和らいできました。晴れている日は、これまでのようなじめじめとした暑さだけでなく、からっとした暑さになってきました。鮮やかな青空を見あげてみると、真夏に盛んであったモクモクとした入道雲に代わって、今度は白い秋の雲が軽やかに流れています。

さて、この過ごしやすい秋の季節におすすめしたいのが読書です。本を読むことで様々な効果があると言われていています。例えば知識の蓄積です。自分が知りたい情報を本から学ぶとき、そのこと以外にも関連する周辺の情報が次々と入ってくるので、これを繰り返していけば自ずと幅広い知識が身につきます。

また、読書により語彙や言い回しのバリエーションも増えていきます。そうすると、会話力や文章力も向上し、よりの確に自分の考えを相手に伝えることができたり、より円滑な人間関係を構築したりとコミュニケーションにおいても力を発揮できるようになると思います。

もう一つ、読書の効果を挙げるとすると、想像力と創造力の研磨です。物語を読み進めていくと、自分の知らなかったお話の世界にどんどん没入していきます。主人公の置かれた環境や生き方、人となり、周りの人々の様子など、例えそれが架空の設定であったとしても、心の中では「どういう様子なのだろう…」「どんな気持ちだっただろう…」と想像が膨らみます。さらに挿絵でもあればそれに目をやることでさらに思い描いた像は膨らみます。あちこちと考えを巡らせ想像する、この繰り返しが本の世界から離れた時、すなわち毎日の生活においても大いに役立つと思います。何か新しいことを生み出すというような企画力や実行力、問題を見抜いて打開策を打ち出す解決力、また音楽や美術などの芸術の世界で言えば作品の制作力などなどこれらは「想像する力」の積み重ねが「創造する力」へと転じていったことで表れた力と言えます。

本は読めば読むほど自分の可能性が拓けていいこと尽くめの効果をもたらすと思っています。これからは、落ち着いて物事に取り組むことができる気候となります。この機に、子どもたち一人一人がお話の世界の扉を開けて、知識の獲得、感性の研磨を願っています。

第8回幼小中交流音楽会について

4年ぶりに幼小中交流音楽会を実施します。ここ数年コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず音楽会を中止したり、幼小中ごとに音楽会を開催したりしましたが、今年度は幼小中が一つとなって交流音楽会を開催します。第8回目の交流音楽会となります。プログラムや駐車場のご案内等は後日連絡いたします。どうか楽しみにしてください。

○日 時 令和5年11月11日(土) 振休11月13日(月)

○時間帯 第1部 幼稚園太鼓演奏・(幼・小1年～3年)の合唱及び合奏

第2部 中学校吹奏楽部演奏・(小4年～中3年)の合唱及び合奏

○場 所 聖徳中学校体育館